

新興国の供給ショックと先進国の低インフレ

—3 カ国 DSGE モデルによる考察—

日本銀行 岩崎 雄斗

アジア開発銀行研究所 河合 正弘

日本銀行 平形 尚久

中国をはじめとする新興国の供給能力の拡大により、世界貿易に占める新興国のシェアは拡大を続けている。同時に、先進国において、新興国からの輸入シェアは、近年大幅な上昇を記録している。新興国は先進国との比較において低賃金国であることから、こうした国からの安値品の輸入拡大は、米国、欧州、日本などで見られるインフレ率の低下の一因ではないか、との指摘もなされている。一方で、高い成長率を記録し、生産性の上昇率が高いと考えられる新興国では、高いインフレ率を記録している。さらに、先進国の中でも、日本は、他の先進国と比べてとりわけインフレ率が低下している。本稿での目的は、新興国での高インフレと先進国の低インフレという現象と、先進国の中でも日本のインフレ率が低いという現象という二つの現象と新興国の正の供給ショックによる貿易財供給の拡大の関係を考察することである。

まず、中国をはじめとする新興国の供給ショックが、先進国のインフレ率を引き下げたか、との点に関して、米国での先行研究である **Auer and Fisher(2010)**にしたがって実証分析を行ったところ、日本も米国、欧州と同様に新興国の供給ショックが有意にインフレ率を引き下げたことが示された。さらに、日本では、米国、欧州と比べて、新興国の供給ショックのインフレ率に与える影響度合いが大きいことが示唆する結果となった。こうした実証結果を基に、3 カ国モデルを用いて、新興国の供給ショックの影響を分析した。ここでは、日本と他の先進国（米国）の貿易構造の違いに着目し、この違いが新興国の供給ショックの影響度合いに違いをもたらすか、を検証した。シミュレーションの結果、現実的な条件のもとでは、新興国の供給ショックの影響が、日本の方が大きくなることが示された。